

『BRÜCKE』の歩み

- 1988年3月 獨協大学大学院外国語学研究科ドイツ語学専攻から『研究報告集 (Forschungsbericht Germanistik)』が創刊される。
- 1989年4月 第2号から冊子の名称が『BRÜCKE』となる。
- 1991年4月 第4号から『BRÜCKEの会』会則』が掲載される。
- 1993年11月 第6号の別冊として山本淳氏の博士学位論文が刊行される。
- 1997年5月 第10号にて特集「第10号に寄せて」が企画され、先生方からの記念原稿12本が掲載される。同号から表紙に副題の„Beiträge von Magistranten und Doktoranden des Faches Germanistik an der Dokkyo-Universität“と„ISSN 1342-7091“が加わる。
- 2005年5月 第18号の別冊として住大恭康氏の博士学位論文が刊行される。
- 2012年6月 第25号にて特集「創刊25周年企画『BRÜCKE』—その創刊意義を振り返る—」が編まれ、先生方や修了生からの記念原稿8本が掲載される。
- 2014年5月 第27号から冊子表記の「研究報告集」を「大学院紀要」へ変更する。それと併せて、掲載カテゴリーの「研究報告」を「論文」とする。
- 2017年5月 第30号にて記念特集が掲載される。また同号から掲載された原稿を対象として、「獨協大学学術リポジトリ」でのオンライン公開がはじまる。

獨協大学大学院外国語学研究科ドイツ語学専攻が発行する紀要『BRÜCKE』(ブリュッケ)はめでたく第30号を迎えることができました。同冊子の歴史的な変遷を鳥瞰できる年表資料がこれまでありませんでしたので、今号の節目を機としてこれまでの「歩み」を作成しました。

創刊号にあたる『研究報告集』は、大学院にドイツ語学専攻が増設された1986年度の次年度にあたる1988年3月に発行されました。報告集を出すこ

とが決まったとの知らせを耳にした当時の大学院生たちの（どよめく）様子を、私たちのOBでもある、金井満先生（本学ドイツ語学科教授）が第25号の寄稿文のなかでユーモアを交えて生き活きと描いています。冊子の名称が『BRÜCKE』に決まった経緯については、同じくOBの山本淳先生（本学ドイツ語学科教授）が第10号と第25号の特集において伝えています。そして、大学院におけるドイツ語学専攻の増設とその舞台裏にまつわる秘話については、下川浩先生（本学名誉教授）が『BRÜCKE』の第3号、第10号、第26号で詳しく述べています。在籍生であっても意外と知らないドイツ語学専攻の歴史について知ることができますので、ぜひご一読ください。

冊子の制作における近年の出来事としては、第27号のときに「研究報告集」から「大学院紀要」へと表記の変更があり、それに併せて原稿のカテゴリーも「研究報告」から「論文」となりました。その契機となったのは、2013年度第8回大学院ドイツ語学専攻委員会（2014年1月15日）の話し合いにて、「研究報告集」との表記によって「論文」が「報告」として不当に低く評価される恐れが指摘されたことでありました。そして、第30号からは掲載された紙面のすべてが、大学からの要請を受けて「獨協大学学術リポジトリ」で公開されることになり、インターネットでのアクセスと閲覧が可能となりました。急速な時代変化のなかにありますが、みなさまのご協力により、今後も『BRÜCKE』の歩みが重ねられてゆくことを祈念しています。

